

## 卒論と友達と図書館

文学研究科 羽柴 亜弥



学部生の皆さんの大学生活における1番の難関といえは卒業論文でしょう。

私は誘惑に弱い性格で、家にいるとテレビや漫画、睡眠などに流されてなかなか卒論が手につきませんでした。これではいけ

ないと思い、毎日図書館に通いました。やはり、図書館は勉強する環境が整っており、断然集中して卒論を進めることが出来ました。10月頃からは毎日開館から閉館まで図書館にこもりました。本当に毎日パソコンに向かって、焦りや不安などを抱え辛い毎日でした。

その辛い毎日を乗り越えることが出来たのは友達のおかげです。環境もちろん大切ですが、私が思う図書館に通って卒論を書く最大のメリットは友達に会えるということです。私は最初友達に会ってしまい、おしゃべりして卒論が進まないことを心配していました。それは全く逆でした。友達がいたからこそ書きあげることができたのです。日本史中世のゼミの場合、ほとんどのゼミ生が図書館で卒論をやっていました。みんなが頑張っている姿を見ていると自分も頑張ろうという気持ちになります。行き詰まったときは相談をしました。アドバイスはなくても、友達に話すだけで頭が整理されてやるべきことが見えてきました。時には愚痴を言い合い、励ましあって、なんとか全員無事卒論を提出することができました。

図書館での勉強のいいところは友達と一緒に頑張れるということだと思います。確かにラウンジのようにおしゃべりにくるのはいけないことです。しかし、課題や各自の勉強をしていく中で、意見交換や討論することはとても大切なことです。大学の図書館なので特に必要な環境です。その反面静かな環境も求められます。難しいですが両立できたらいいと思います。

皆さんも図書館をおおいに活用をして卒業論文頑張ってください。